

平成24年度 第59回 全国高等学校ワープロ競技大会 (24. 8. 8)

【競技問題】

コンピュータや携帯電話が普及した今でも、ラジオの深夜番組に 30
耳を傾ける人は多い。かつては、人気のあるタレントがDJを担当 60
する番組を、多くの若者たちが聞いていた。番組内では、タレント 90
の新曲や個人的なエピソードなどを聞くことができた。昭和42年 120
に始まり今も続く長寿の深夜番組は、現在も変わらぬオープニング 150
の曲が有名で、親しみを持っている人もいる。 172

昔を懐かしんで面白い番組がないかと、深夜にラジオのダイヤル 202
を回してみる。すると、昼間は聞こえなかった遠方の放送や外国語 232
の放送が、聞こえてくることがある。これは、昼間と夜間で電波の 262
伝わり方が異なるために起こる、不思議な現象だ。こうした特性を 292
生かし、ラジオの遠距離受信を楽しむこともできる。 317

例えば、前に住んでいた地域の局の周波数に合わせて、ラジオを 347
聞いている人がいる。転勤などで遠く離れた地域に移り住んだ場合 377
に、応援するプロ野球チームの試合が、テレビ放映されていないこ 407
ともある。そこで、ラジオの実況を聞くために、ダイヤルを合わせ 437
るのだ。 442

AMラジオは、中波と呼ばれる周波数帯を使用している。中波の 472
電波は首都圏にある出力の大きい放送局でも、昼間は最大で200 502
キロメートル程度しか飛ばない。だが、夜間は地球を覆う電離層の 532
関係で、遠く離れた場所まで電波が届くようになる。この中波帯よ 562
りも高い周波数帯を短波という。この短波は昼夜を問わず外国まで 592
電波が届くので、主に諸外国へ向けた国際放送などに利用される。 622
さらに、短波帯より高い周波数を超短波帯といい、国内向けのFM 652
やテレビ、業務無線などに使用される。 671

普段は夜間であっても、FMラジオでは遠くの局の放送を受信で 701
きない。しかし、春から夏の昼間に、FM電波を反射する電離層が 731
発生することがある。その時だけは遠方からの放送を聞くことがで 761
きるので、愛好家には楽しみな時期となっている。 785

以前、テレビがアナログだった頃は、NHKテレビはFMに近い 815
周波数で送信していたこともあり、この時期には、画像が乱れると 845

いう電波障害の苦情が多く寄せられていた。デジタルとなった現在は、障害を受けることがなくなった。	875 893
アマチュア無線も、電波の様々な特性を生かしたものの一つである。近隣の仲間と連絡を取るのに無線を使うこともあるが、遠方や海外の見知らぬ人との通信手段として、活用する人が圧倒的に多いようだ。上級者は、モールス信号を使って交信し電波の伝わり方を研究している。ただし、電波を出すためには、国家試験を受験して合格することが必要である。	923 953 983 1013 1043 1057
今から約35年前、日本ではラジオブームが起こった。これは、世界の国々の番組を聞いて、世界情勢に詳しくなろうという知的な趣味として盛り上がっていた。こうした放送を聞くために、専用の高価な受信機を所有する人も多かった。この受信機は、豊富な機能进行操作するためのスイッチやつまみなどが多いので、機械いじりが好きな子どもたちにとっては、憧れのアイテムだった。	1087 1117 1147 1177 1207 1233
ここ数年、短波放送の人气が復活しつつある。様々な理由はあるが、再ブームの根本には当時の専用受信機に対する強い憧れが、今もあるからだという。以前のブームの時、各企業から専用受信機が数多く発売されていた。電器店は、現在の携帯電話コーナーと同じくらいのスペースに、多くの専用受信機を陳列していた。しかし、性能が良いものは高価だったので、当時の小中学生には購入できなかった。今では、オークションを利用して簡単に入手できるようになり、人气が再燃したといわれている。	1263 1293 1323 1353 1383 1413 1443 1462
以前は英語放送をはじめ、語学学習を目的に短波放送を聞く人がいた。例えば、イギリスのBBCやアメリカのVOAなどの番組を聞いて、本場の英語を学習するということだ。現在でも、語学学習に短波放送を利用している人もいる。また、諸外国の放送は母国語を使うことが多く、番組内容が理解できなくても、挨拶など簡単な言葉を覚えることは可能だ。中には、その国の魅力にひかれ、独学で現地の言葉を習得したという人もいる。	1492 1522 1552 1582 1612 1642 1662
語学に限らず、諸外国の音楽を聞くことを楽しみにしている人も	1692

多い。アフリカの陽気なポップスや中東諸国の神秘的な音楽など、	1722
世界中の様々な音楽に触れることができる。また、民族楽器の音色	1752
は、普段耳にすることがないので、興味深く聞くことができる。	1782
多くの放送局が、自局の放送を聞いてくれた証明のカードを発行	1812
している。このカードを受信確認証（ベリカード）といい、自国の	1842
綺麗な風景の絵はがきや魅力的なデザインが多く、各放送局は趣向	1872
を凝らして作成している。短波愛好家の中では、この受信確認証を	1902
収集することを目的に楽しむ人が一番多い。	1923
この受信確認証をもらうためには、受信報告書というレポートを	1953
放送局に送る必要がある。受信報告書は、聞いた日時や言語、番組	1983
内容や感想などを書いて送付する。放送局は、その報告書が間違い	2013
なく自局の放送だと確認した場合に限り、カードを発行する。その	2043
他にもサービスの良い放送局は、記念品や雑誌などを送付してくれ	2073
る。愛好家の間では返信の内容について、インターネットの掲示板	2103
で積極的に情報交換をしている。	2119
一方、放送局にとっては、受信報告書は貴重な資料である。目的	2149
の地域に向けた電波がきちんと届いているのか、番組の内容はどう	2179
かといった調査資料となる。特に海外向けが中心の放送局は、受信	2209
報告書の送付を番組の中で呼びかけている。	2230
普段は聞こえない、送信出力の弱い海外の放送局をターゲットに	2260
して、受信を試みる人もいる。季節や時間などの様々な条件が揃え	2290
ば、出力の微弱な放送を聞くことも可能だ。特に南米やアフリカと	2320
いった地域の放送局では、国内を対象に弱い出力で放送をしている	2350
ことが多く、日本でなかなか聞くことができない。このような放送	2380
を受信しようとする人は、特定の地域を対象に狙いを定めることが	2410
多いという。	2417
現在、14か国から送信されている日本語放送を楽しむ愛好家も	2447
多い。近隣諸国からは、モンゴルや中国、韓国といった国から送信	2477
されている。遠方の国では、地球の反対にあるアルゼンチンからの	2507
日本語放送がある。平日夜7時から1時間だけ日本向けに放送され	2537

ているが、滅多に受信できないことで有名である。受信できた時の喜びは、それだけに大きい。	2567 2581
ここ数年、インターネットに接続する手段として、電気の配線を使って接続する方法がある。接続の際、大量のノイズが発生して、ラジオ放送に悪影響を与えることが大きな問題となっている。短波放送の愛好家やアマチュア無線の団体の間で、これに反対する動きがあり、署名活動が行われた。しかし、一部の周波数だけにノイズ発生規制がされただけで、関係者を落胆させた。	2611 2641 2671 2701 2731 2755
昔と違い、家の中はノイズで溢れている。パソコンやテレビなどのノイズを撒き散らす電子機器が増え、まるでノイズという埃の中で生活しているようだ。ラジオを聞く環境は、技術の進歩とともに年々劣悪なものへと変化し続けている。	2785 2815 2845 2864
愛好家の中には、休日を利用して集まり、海岸に専用のアンテナを張って、テントの中で一晩中寝ずに受信機に耳を傾けるグループもいる。海岸は、建物などの障害物が少なく、微弱な電波を受信しやすいという利点がある。都会だと受信が困難な出力の小さい外国の放送も、聞こえる可能性が高い。これまでに、ハワイからの出力が弱い中波放送や南米の短波放送など、数多くの珍しい局が受信された実績がある。中には、アフリカの中波放送が確認されたという例もある。	2894 2924 2954 2984 3014 3044 3074 3080
現在はインターネットを使い、世界各国の放送を聞くことが可能だ。好きな番組をダウンロードすれば、携帯プレーヤーで好きな時に聞くことができる。ラジオで、ノイズに埋もれた放送を聞く必要はない。私たちが目で見ることのできない、世界中を駆け巡る電波をキャッチすることは、大海原から大きな魚を釣り上げるようなものである。ラジオの遠距離受信の醍醐味は、こうしたことにあるのだろう。	3110 3140 3170 3200 3230 3260 3264